

平成16年度ヨコワ情報

平成16年12月1日
鹿児島県水産
技術開発センタ -



1 本年度のヨコワの来遊予測

本年12月から来年4月までの本県へのヨコワの来遊は、次のように予測されます。

漁獲量は、前年(10トン)・平年(24トン)を上回り、50トン程度とされます。
漁期は、平年に比べやや遅れ気味で、初漁は3月下旬頃になるとされます。
主漁期は、4～5月と予測され、漁況は活発的なものになるとされます。
魚体は、今年春・夏生まれの1～4kgサイズのヨコワが主体になるとされます。
3月以降、前年春生まれの2歳魚の来遊は少ないものの、今年春・夏生まれの当歳魚が来遊する可能性は高いとされます。

2 予測の根拠

一般的に、長崎県対馬海域では、10月頃にヨコワ漁場が形成され、その後、翌年の1月頃になるとヨコワ漁場は長崎県五島海域に南下するが、その後の海況条件等が整えば一部のヨコワ魚群が翌年の1月以降、本県海域に来遊してくると考えられる。

今期、現在まで得られている情報は、次のとおり。

- | | | |
|-------------------|---------|----------------------|
| (1)冬季の水温 | 平年並み | (詳細は、3 - (1) - , 参照) |
| (2)長崎県対馬・五島海域の漁模様 | 今のところ不漁 | (詳細は、3 - (2) - , 参照) |
| (3)高知県の漁模様 | 今年も大好漁 | (詳細は、3 - (2) - 参照) |
| (4)日本海の産卵親魚の漁模様 | 今年は大好漁 | (詳細は、3 - (3) - 参照) |
| (5)カタクチイワシの漁模様 | 平年並み | (詳細は、3 - (1) - 参照) |

これらを総合的に検討すると、本県の漁期全体のヨコワの漁獲量は、今後の海況条件等にもよるが、「かなり期待できる」と考えられる。

今後、水技センタ - が発表する水温情報に注目してください。目安は、**18～20 の水温帯**です。

3 情報

(1)漁海況に関する情報

(社)漁業情報サ - ビスセンタ - 発行の「東シナ海漁海況速報」では、10～11月中旬の黒潮～対馬暖流域の表面水温分布は、前年・平年と比較すると「平年並み～1 低め」で推移しており、11月に入ってから緩やかに降温している。

独立行政法人 水産総合研究センタ - 西海区水産研究所が平成16年10月に発表した「平成16年度第1回東シナ海海況予報」によると、平成16年10月～平成17年3月にかけての海況の見とおしは次のとおり。

海流及び水系分布

- ・薩南海域における黒潮北縁域の位置は、11月頃には「接岸傾向」となるが、全般的には

「屋久島南付近での変動」で経過する。

・九州西方における対馬暖流水の分布は、前半は「西偏」、後半は「東偏」で推移する。

水 温

表層水温は、前半、後半ともに、西薩・甌沖、薩南沿岸、黒潮域では、「**平年並み～やや高め**」で経過する。

カタクチイワシ

平成16年10～12月期の「**鹿児島県の海況と浮魚類漁況の予報**」では、タカクチイワシの漁獲の主体は“大羽”で、来遊量は「**前年・平年並み**」と予測している。

(2) 現在までのヨコワ情報

日本海方面

山口県...11月下旬現在、平年並みの漁模様であるが、漁期が遅れる傾向にある。

島根県...ヨコワは、まき網・釣・定置網での漁獲が主体で盛漁期は11月であるが、10月下旬現在、好調な漁模様。10月は隠岐での当歳魚が漁獲(釣)の中心であった。

新潟県...11月下旬現在、ここ3～4年では30cm(1kg)前後の当歳魚の漁獲量は多い傾向にあるが、曳釣は平年並みの漁模様。

対馬方面

11月下旬現在、対馬海域では、北西部に漁場が形成され、1～3kgサイズを約70kg/隻

・日の漁模様とまだ本格的な漁には至っていない。

五島方面

11月下旬現在、五島海域では、まだ本格的な漁には至っていない。

太平洋方面

宮崎県...11月下旬現在、浮魚礁周辺でキハダ主体にカツオ、シイラ等の漁獲はあるものの、まだ本格的な漁には至っていない。

高知県...7月12日頃(前年より3日早い)から開始され、その漁獲尾数は約69,000尾で前年の約26,000尾、平年値の約23,000尾を大きく上回った。11月下旬以降は低調な漁模様。

鹿児島県沿岸域

笠 沙...笠沙～甌島海域での曳縄による水族館用種苗のヨコワ採捕は、前年同様8月上旬に開始された。平年より小型サイズが多く、回遊量も前年同様非常に多かったが、多くの台風の影響により魚群が逸散し、注文数(標識放流も同様)を確保できずに9月上旬に終漁した。しかし、その後は、定置網への入網は見られない。

平成16年：1,661尾、平成15年：2,882尾、平成14年：249尾、平成13年：883尾

甌 島...ヨコワの浮魚礁への蜻集及び定置網への入網は見られない。

(3) クロマグロ大型群に関する情報

太平洋方面

北部太平洋で今年の1～9月に大中型まき網により漁獲されたクロマグロは、20kg以上の「マグロ」の漁獲量が2,494トン(前年：173トン)、20kg未満の「メジ」の漁獲量が113ト

ン(前年：143トン)で、「マグロ」の漁獲量は、前年同期の1,441.6%で前年より2,321トン増加したが、「メジ」については、前年同期の79.0%で前年より30トン減少した。

日本海方面

日本海の境港に今年、大中型まき網により水揚げされたクロマグロは、漁獲量1,700トン(前年：433トン)、漁獲尾数32,300尾(前年：6,768尾)で、前年と比較すると、漁獲量で392.6%と大幅に増加し、漁獲尾数でも477.2%と大幅に増加した。

また、1尾当たりの平均個体重量は、前年より若干小さい50kgサイズ(前年：60kgサイズ)であったが、モードについては、10kgサイズ(2003(平成15)年級の当歳魚)と30kgサイズ(2001(平成13)年級の3歳魚)と100kgサイズ(1997(平成9)年級の7歳魚)の複数の年級群が混在していた。

(4)本県における水揚げ量の経年変化

過去の枕崎港の水揚げ実績をみると200トンを超えるような好漁年の期間と50トンに満たない不漁年の期間が交互に来る周期が伺える。昭和61年以降は、10トンに満たない低調な年が続いていたが、平成6年に55トン、平成8年に17トン、平成11年に42トン、平成13年に38トン、平成14年に39トンと近年はある程度の漁獲のある年もみられる。

笠沙港においても昭和60年までは周期的な豊漁年がみられたが、昭和61年以降、漁が途絶えていた。しかし、平成8年は、昭和60年以来10年ぶりに16トンと10トンを超える漁獲があった。

(情報及び資料の収集先)

本情報の作成にあたっては下記の団体、機関に多大なる御協力をいただきました。心から感謝します。ありがとうございました。

小値賀町漁協・五島漁協・上対馬町漁協・上県町漁協(長崎県)
甑島漁協・笠沙町漁協・野間池漁協・枕崎市漁協(鹿児島県)
北部太平洋まき網漁業協同組合連合会・山陰旋網漁業協同組合
新潟県水試・鳥取県水試・島根県水試・山口県水試・高知県水試・長崎県水試・宮崎県水試
対馬水産業普及指導センター・五島水産業普及指導センター
独立行政法人 水産総合研究センター - 遠洋水産研究所

鹿児島県水産技術開発センター

〒891-0315 指宿市岩本字高田上160番10

TEL : 0993-27-9212 , FAX : 0993-27-9218

E-mail : suisan@kagoshima.suigi.jp

ホームページ : <http://kagoshima.suigi.jp>

<http://kagoshima.suigi.jp/i/> (携帯電話)

下甑島沖浮魚礁音声情報サービス TEL : 0993-27-9233

漁海況週報FAX情報サービス

衛星画像 FAX : 0993-27-9234

漁海況週報・海流速報 FAX : 0993-27-9235

衛星画像 FAX : 0993-27-9236

